

共-4 国際研究交流のための統計科学誌のあり方の研究

統計数理研究所 松 縄 規

統計の国際的な科学雑誌は内外の統計研究者の情報及び研究交流の場としての機能を十分に果たすべきである。この認識から、本研究では、参加者の経験を基に雑誌の編集方法、組織・運営あるいはサーキュレーション等について多角的に検討し、雑誌を通じての研究者の国際交流に編集関係者達がどのように協力できるかを探ることを目的とする。

共-5 漸近展開の誤差評価

統計数理研究所 清 水 良 一

ある統計量の分布関数 $F_n(x)$ を、極限分布 $G(x)$ を第一近似とする漸近展開 $F_{(k)}(x)$ で近似したときの誤差 $R_k(k) = F_n(x) - F_{(k)}(x)$ を評価すること、すなわち、

$$\sup_x |R_k(x)| \leq C_k(n)$$

を満足する定数 $C_k(n)$ を定めることが目的である。

共-53 多くの母数の同時推定における修正最尤推定量の性能

統計数理研究所 柳 本 武 美

現象を細かくみるとモデルに数多くの母数を必要とする。もし多くの母数が適切に推定できるとすれば、少ない母数を仮定したモデルより有効になる。近年条件付尤度あるいは周辺尤度に基づいた最尤推定量が従前考えられていたよりよい振舞いをする事が分ってきた。

複雑で一般的なモデルでは、理論的に扱うより、プリンシプルを明確にすると共に、簡単なモデルを解析的に、実際のモデルをシミュレーションによって調べることが有効である。

共-6 (共-54) 統計教育の補助教材の開発

統計数理研究所 鈴 木 義 一 郎

高度情報化社会といわれる今日、統計的方法の有用性は学界や産業界で急速に拡大されつつある。一方、統計学の知識を習得させるための教育体制は、依然として脆弱である。そこで、学校教育の現場で効果的に利用できる“補助教材”を開発することにより、正しい統計学の知識の普及に寄与することができる。特に昨今では、驚異的な普及をみせているパーソナルコンピュータを利用してグラフ化の手法を多用した教材の開発に重点を置く。また統計教育を担当している現場教師の統計的センスを補強する方策についても検討を行う。

共-7 統計ソフトウェア組織化に関する基礎研究

統計数理研究所 赤 池 弘 次

統計ソフトウェアは統計に関する理論的成果を実用に供する際に必要な専門的知識を意味するものである。我が国におけるこの分野の研究がこれ迄散発的であったことにかんがみ、国内・国外の研究者の研究討議と情報交換の場を設ける必要性は大である。そのための環境と情報の整備を行い、統計ソフトウェアの組織的利用の推進の基礎的研究を行う。